

公開文書

令和 2年 6月 24日

(臨床研究に関する公開情報)

水戸医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご理解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【研究課題名】 中等から重症外傷疾患患者におけるポリファーマシーと長期予後（自然史,QOL,社会復帰）との関連；コホート研究

【研究責任者】水戸医療センター 薬剤師 庄司航

【研究の背景】 世界保健機関（WHO）の定義では、ポリファーマシーとは5剤以上の定期薬の服用とされています。ポリファーマシーは、『不適切処方』とも言われ、薬物相互作用や転倒、認知症、入院等のリスクと関連し、服用薬数を減らすしていくことは、世界的に大きな課題となっています。またポリファーマシーは、多疾患併存状態（2つ以上の長期にわたる併存疾患の存在）とも関係が深く、ポリファーマシー、多疾患併存状態それぞれが外傷患者さんの長期予後の悪化に関連していると考えられています。さらに、外傷（不慮の事故）は平成30年の死因第6位であり、子供や若年層の死因の第1位、2位を占め、社会的損失の大きい健康問題です。従って、中等から重症外傷患者さんにおいてもポリファーマシーであるか否かにより、その短期予後・長期予後が異なると考えられ、ポリファーマシーを是正する事で外傷患者さんの長期予後も改善することが期待されます。特に超高齢社会である日本において、中等から重症外傷患者さんの長期予後は社会的にも大きな問題となり、これから高齢化を迎える世界の先駆であるという意味でも重要な課題です。

【研究の目的】

ポリファーマシーと中等から重症外傷患者さんの関係性を見つけることが目的です。

【研究の方法】

対象となる患者さん

- 西暦2017年11月1日から西暦2019年10月31日までに、平成29年度国立病院機構ネットワーク共同研究:H29-NHO（多施設共同研究）-01の対象となり定期的にQOLアンケートを記載された患者さん
- 利用する情報、カルテ情報、転帰、効用値(EQ-5D-5L)、生活場所、治療頻度、社会（仕事）復帰有無、再入院の有無、これらと服用薬剤の種類と数の関係性を検討します。

●情報の管理

研究のために集めた情報は、当院の研究責任者が責任をもって鍵のかかる部屋のインターネット接続可能なパソコンに保存します。漏洩することのないようセキュリティを確保します。研究終了後は5年間保存し、保存期間が終了した後に個人を識別できる情報を取り除いた上で廃棄いたします。

【個人情報の取扱い】利用する情報からは、お名前、住所など、個人を直接同定できる情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報を利用しません。

【問い合わせ先】

国立病院機構水戸医療センター 薬剤部 庄司航

電話番号：029-240-7711